



1年次から多様な留学機会を与え、 学びの意欲を高めるきっかけに

名古屋商科大学 留学プログラム

ヨーロッパ約75日間の 1人調査旅行に挑戦!

2年次にヨーロッパ各国を回りながら自分で設定した研究調査を行う「ギャップイヤープログラム」に参加。他の参加者とパリで事前研修を受けてから調査をスタートしたため、不安は少なかったです。(小塚さん)



ベトナムで海外の同世代の仲間と ボランティア活動を行う

1年次に「国際ボランティアプロジェクト」でベトナムに行き、保育園で子どもに英語を教えたり、壁(写真)の補修を手伝ったりしました。帰国後は、長期留学を目指して、英語の学習に力を入れています。(丸本さん)

4か国25都市を回り、視野が広がった

ヨーロッパでの活動中は、調査を行う日と観光する日(写真はミラノ大聖堂)を決め、計画的に調査を進めました。一番の収穫は、幅広く学ぶ必要性を実感できたことです。経営だけでなく、心理学やマーケティングにも興味を持ち、学んでいます。(小塚さん)

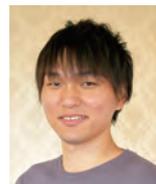
開学当初から国際化に取り組み、世界59か国149校の大学と提携。豊富な留学プログラムを用意しており、卒業までに学生の約4分の1が何らかの留学プログラムに参加するという。1年次から参加可能な留学プログラムも多数あり、その代表的なプログラムの1つが、海外の同世代の仲間と一緒にボランティア活動を行う「国際ボランティアプロジェクト」。

名古屋商科大学は、世界で活躍するグローバル人材の育成を教育目標に掲げ、実践的なビジネススキルが修得できる4学部8学科(*2)を設置している。

1年次から挑戦できる ボランティア留学



コミュニケーション学部*1
英語学科3年
丸本紗代子
まるもと・さよこ
岐阜県立大垣南高校卒業。
長期留学を希望しており、
同大学に入学。



経営学部
経営学科3年
小塚健太
こづか・けんた
愛知県・私立至学館高校卒業。
経営学を学び、将来は
起業するのが夢。

*1 コミュニケーション学部は、2018年度より国際学部へ改組。*2 経済学部(総合政策学科/経済学科)、経営学部(経営学科/経営情報学科)、商学部(マーケティング学科/会計ファイナンス学科)、国際学部(グローバル教養学科/英語学科)の4学部8学科。

クト」だ。

コミュニケーション学部英語学科3年の丸本紗代^{さよ}さんは、1年次の夏季休業中にベトナムの保育園でのボランティア活動に参加した。国籍の異なる10人と言葉の壁を超えて協働したことで、学びの目標が明確になったという。

「中国と韓国から来た学生と仲よくなり、留学後も互いの家を行き来するくらいに絆を深めました。ただ、私の当時の英語力は低く、日常会話をするのも一苦労でした。帰国後は、英語力を高めるために英語の学習に力を入れ、長期交換留学に挑戦したいと考えるほどになりました」

海外で開拓者精神を身につけるプログラムも

経営学部経営学科3年の小塚健太^{けんた}さんは、2年次に1・2年生向けの留学プログラム「ギャップイヤープログラム」に参加した。約75日間かけて1人でヨーロッパを回りながら自分で設定した研究テーマについて調査を行い、開拓者精神を身につける留学プログラムだ。

小塚さんは、「なぜ、ファストファッションがヨーロッパで流行している

か」を調査するため、フランス、スペイン、イタリア、イギリスの4か国25都市を訪れ、店舗で消費行動を観察し、現地の顧客130人へ街頭アンケートを実施。渡航中、小塚さんが苦労したのは言葉の壁だ。街頭での調査を想定し、タブレット端末を使つて現地語でのアンケートに回答してもらう準備をしたが、最初は思うように調査が進まなかった。

「現地語で挨拶をしても通じず、立ち止まってもらえませんでした。勇気を奮い立たせ、身振り手振りも交えてアンケートを依頼したところ、答えてくれる人が増えていきました。大切なのは言葉だけではなく、熱意だと学びました」(小塚さん)

留学中は大学にレポートを週1回提出し、帰国後は調査結果をまとめて提出することで、教養教育科目単位として最大10単位が認定される。

「経営学でPDCAサイクルの重要性を学んでいましたが、研究においても自分でPDCAサイクルを回すことが重要だと実感し、経営学がより面白く感じられるようになりました。現在はマーケティングの研究室に所属しています」(小塚さん)

留学後にも語学力を鍛える環境が

整っている。図書館内のセルフ・アクセス・センター(SAC)では、個別に外国語学習法や海外留学などについてのアドバイスを受けられる。

奨学金と単位認定を受けられ、複数の留学挑戦も可能

同大学は、2年次以降、本格的に海外で学びを深めたい学生のために、「サマープログラム」「交換留学」などの学術系留学も充実させている。成績や語学力などの基準を満たし、選考に通過すれば、そうしたプログラムでの欧米の有名大学への留学も可能だ。また、すべての留学プログラムに対して航空運賃代や留学先授業料などの給付型奨学金が設けられている。

丸本さんは、2年次に香港中文大学での1年間の交換留学、3年次に「海外インターンシップ」に参加した。どの留学プログラムも単位が認定され、複数の留学にも挑戦でき、休学せずに4年間での卒業が可能だ。「海外の同世代の仲間と接し、自分の意見を持つことの重要性を学び、新しい自分に変われました。将来は、日本と海外の架け橋になれる仕事に就きたいです」(丸本さん)

大学の思い

海外留学に挑戦して、人生が変わる経験をしてほしい



国際交流委員会委員長
国際学部部長
植村 猛
うえむら・たけし

本学では、1935年の学園創立以来、「フロンティア・スピリット(開拓者精神)」を建学の精神として、教育を実践してきました。それは、学園創立者がカナダ留学時代に肌身で感じた教育精神であり、今の学生にも一番必要なものだとは感じています。失敗を恐れずに、新しい世界に挑戦する意欲は、国際的なビジネスを行う上でも非常に大切です。

そこで、1年生でも挑戦できる様々な留学プログラムを用意しています。また、経営学の大学評価の世界的権威であるAACSB International(※3)を取得して、海外の有名大学との提携による「交換留学」を充実させるほか、「グローバルフィールドスタディプログラム」(80日間、2人1組での世界一周など)といったユニークなプログラムも提供しています。さらに、2020年度入試から「ダブルディグリープログラム入試」を開始し、本学卒業時に留学先と本学の学位の両方取得できる特別枠を用意します。今後も、世界を舞台に活躍したいと考える学生を育成していきます。

*3 米国の経営学教育の第三者評価機関による教育の国際認証。名古屋商科大学は、2006年に国内2例目となる認証を取得。